

障がい者の作業性を考慮したブルーベリーの整枝法

垣根仕立ては果実を見つけやすいので、収穫時間が短縮し、正品率も向上

1. 果実を探す作業が苦手

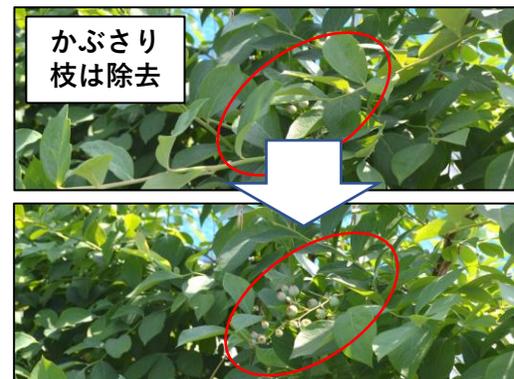


障がい者の中には視線を動かすことや2つ同時に作業することが苦手な人がおり、内側や株元、高い位置の果実は見落としがち

2. 垣根仕立てにより樹幅を減らすことで、果実を見つけやすい



1段目を70cm、2段目を120cmとなるように直管を配置し、枝を誘引



収穫直前にかぶさり枝や通路に伸びた新梢を除去することで、視認性が更に向上

表 調査結果(2021年) 供試品種：ホームベル、ティフブルー、ブルーシャイン 5年生(ポット栽培)

試験区	樹幅(cm)	視認可能率(%)	収量(kg)		100果収穫時間(分:秒)	正品率及び格別要因(%)					
			1樹当たり	10a当たり		正品	過熟	未熟	小玉	裂果	傷
垣根区	72	100	0.4	112	4:30	91.8	0.2	1.9	3.8	0.9	1.3
対照区	132	63	0.6	103	5:47	87.0	0.2	2.6	4.8	2.5	2.8

※視認可能率は、かぶさり枝等をめくらずに果実を確認できる結果母枝の割合。

10a当たり収量は、通路を1m確保できるように樹列間は垣根区2m、対照区3mとし、樹間は両区とも2mとして算出。

収穫作業等は健常者が実施。

垣根仕立てにより、樹幅を1m以内に制限することで、視認性が向上し、収穫時間が短く、正品率も向上した。着果位置が平面となり、低い位置はタイヤ付き椅子の利用も可能。